

平成27年度 学校経営の改革方針

三重県立四日市高等学校

I 目指す学校像（基本理念）

遍く険しく、光輝く八稜星のごとく

（八稜星）＝四高のシンボル

- ・ 多方面にわたって発展する若人の情熱を表現。
- ・ 「八」は、画一を排し多様な価値観を大切にする懐の深さ、「稜」は高く険しき壁にぶつかっても、心を動かさず耐え忍び、努力で克服する堅忍不拔の心意気を表象。

II 現状と課題

- 1 本校は、1899年の創立以来、我が国及び国際社会において活躍する多くの人材を輩出しており、三重県を代表する進学校として、生徒、保護者及び県民から大きな期待が寄せられています。とりわけグローバル化や人口減少が進むなか、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む役割が求められています。
- 2 生徒の視点に立ち、生徒一人ひとりの個性と生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな体）の育成を図るとともに、全ての生徒に卒業後も高度で優れた学問を学び続けうる質の高い「学力」を培う必要があります。
- 3 生徒一人ひとりが自らの在り方・生き方を確立できるよう、教員との十分な対話の機会を設けるとともに、引き続きスクールカウンセラー等外部人材とも連携し、教育相談体制の充実を図る必要があります。
- 4 「文武両道」の校是のもと、活発な部活動が行われていますが、指導上の課題もあることから、部の統廃合の検討及び複数顧問制を継承するとともに、進学校における部活動の在り方や教員の役割分担について更に考察する必要があります。
- 5 教育活動への献身的な取組が教職員の過重労働を生む土壌となっていることから、業務の精選・重点化を図るとともに教職員相互が協力し合い、助け合う学校組織文化を、より一層、醸成する必要があります。

III 中長期的な重点目標

- 1 3～4年の間に生徒に身に付させたい重点資質（H26度、教職員アンケートより）
 - （1）自主・自律の精神（学習面・生活面）
 - （2）幅広い視野（グローバル・マインドとシチズンシップ（市民性））
 - （3）挨拶（相互に尊敬し合う態度）
- 2 重点目標
 - （1）スーパー・グローバル・ハイスクール事業（2014年度～2018年度）を契機に新しい高校教育の在り方を研究し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む高校として、その役割を果たします。
 - （2）生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上及びいじめや不登校の未然防止等を図り、生徒の視点に立った理想の学校、理想の学級集団づくりを進めます。

- (3) 生徒が学力を高めることができる指導を充実させるとともに、アクティブ・ラーニングの手法等を参考に本校独自の学習指導方法を活用し、継続して授業内容の充実に努めます。また、授業時間の確保に努め、学力の保証、充実、伸張に努めます。
- (4) 生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら同時に、市民性・社会性（シチズンシップ）を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬し合い認め合う心で挨拶を交わす温かい組織風土を培います。
- (5) 教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会、教員同士の授業見学等を充実して組織を活性化させ、教員の学習指導力と生徒指導力の両面を高めます。

IV 本年度の行動計画

スーパー・グローバル・ハイスクール事業（SGH：2014年度～2018年度）を契機に新しい高校教育の在り方を研究し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む高校として、その役割を果たします。

【全体・SGH推進委員会】

- 1 昨年度を取組を踏まえて改善工夫を進め、本校SGH事業の基盤を確立します。
 (取組状況の指標：5本柱の実践的研究：①総合的な学習の時間『グローバル・マインド』、②学校設定教科・科目『グローバル・リーダー学』、③グローバルアクション、④白熱英語講座、⑤効果測定)
 (達成状況の指標：初期プランの実践的効果検証及び来年度以降の取組の確立)
- 2 新たな海外フィールドワーク及び海外語学研修を安全かつ効果的に実施します。
 (取組状況の指標：今年中に企画概要を固め、今年度中に生徒仮アンケートを実施)
 (達成状況の指標：生徒総計50名以上が参加できる海外研修の策定)

生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上及びいじめや不登校の未然防止等を図り、生徒の視点に立った理想の学校、理想の学級集団づくりを進めます。

【学年会・総務部・進路指導部・教務部・生徒指導部】

- 1 「ハイパーQ-U」を年2回実施し、学級集団の状況や生徒一人ひとりの状況を把握し、親和的な学級集団の育成に取り組みます。
 (取組状況の指標：アンケートを1、2学年2回実施)
 (達成状況の指標：学年修了時において全学級が満足型になる)
- 2 生徒が興味関心を示し、内容を理解し学力が向上する授業を実践するために、「授業改善アンケート」を年2回実施し、「説明や発問等の仕方」「教材の準備や提示の仕方」「指導の工夫」等の視点別に教員が自己評価し、改善することにより、授業の質の向上を図る。
 (取組状況の指標：授業改善アンケート年2回実施)
 (達成状況の指標：各教科担当教員による自己評価において視点の80%以上が4段階の3以上、または2回目の評価において視点の60%以上が向上となる)
- 3 定期試験、実力試験、実力養成試験などの他に確認テストや宿題テストなどを実施し、個人及び学年集団の学力を分析し、きめ細かい学習指導を行います。

(取組状況の指標：各試験の実施、補習授業等学力補充の実施)
(達成状況の指標：到達度目標未達成率5%以下)

【保健部・生徒指導部・学年会・人権教育・図書部】

- 1 観察法（授業や日常の対話）の他に調査法（各種アンケート調査）、面接法（個人面談、三者面談）を実施し、生徒の進路に関する不安や友だち関係、家族関係など様々な悩みを把握し、いじめや体罰の未然防止や早期発見を行い、必要に応じて関係機関との連携、スクールカウンセラー（教育相談専門員）や教育相談担当者、養護教諭と連携して生徒一人ひとりを取り巻く環境の改善や心のケアに努めます。

(取組状況の指標：生徒全員の個別面談年間2回、スクールカウンセラー等の校内外の専門家、教育相談担当者、養護教諭と学年会議によるケース会議の実施)

(達成状況の指標：長期欠席生徒数が前年度より減少、いじめ・体罰ゼロ)

生徒が学力を高めることができる指導を充実させるとともに、アクティブ・ラーニングの手法等を参考に本校独自の学習指導方法を活用し、継続して授業内容の充実に努めます。また、授業時間の確保に努め、学力の保証、充実、伸張に努めます。

【教務部・総務部・進路指導部・教科会・図書部】

- 1 教員が出張で授業が欠ける場合は、時間割変更を徹底し極力自習時間をなくします。
- 2 習熟度講座、少人数講座等を実施し、理解や定着を図り、生徒の満足度を高めます。

(取組状況の指標：学力検討会議・概ね2週間に1度開催)

(達成状況の指標：生徒一人ひとりの学力向上)

- 3 土曜学習会や課外授業（夏期講座含む）を充実させ、個に対応した指導を行います。

(取組状況の指標：土曜学習会および課外授業の実施)

(達成状況の指標：生徒全員が希望する進路の実現)

- 4 保護者、生徒との希望を把握した上で進路検討会議を実施し、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の学力、適性にあった進路を実現します。また、保護者に最新の進路情報を提供するとともに、受験への支援や理解を図ります。

(取組状況の指標：保護者面談、生徒個別面談、進路検討会議の実施)

(達成状況の指標：生徒全員が希望する進路の実現)

- 5 進路主任を座長とする「学力向上戦略会議」（校長直轄）を定期的に関き、授業改善等に先進的な取組を行っている高校の実態の把握、指導方法の工夫、シラバス進捗状況のチェック、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術を研究する。

(取組状況の指標：年間12回以上実施)

(達成状況の指標：生徒一人ひとりが学年始めより学年終了時実施の同種の校外模試または校内実力テストにおいて成績向上)

生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら同時に、市民性・社会性（シチズンシップ）を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬し合い認め合う心で挨拶を交わす温かい組織風土を培います。

【学年会・人権教育・生徒会・生徒指導部・図書部】

- 1 クラスルームソーシャルスキルトレーニングシートの活用、エンカウンターの実施等を取り入れ、生徒相互が育ち学び合える集団を育成します。

(取組状況の指標：総合的な学習の時間においてクラスルームソーシャルスキルトレ

ーニングを年2～3回実施)

(達成状況の指標：学年修了時において全学級が満足型になる)

- 2 SGHの取組と連携して人権学習を実施し、人としてのあり方・生き方を考え、生徒の人権に対する意識を高めるとともに、関わりのスキル、配慮のスキルを高めます。

(取組状況の指標：人権教育の観点を取り入れた教科授業、人権講演会の実施)

(達成状況の指標：学年修了時において全学級が満足型になる。生徒の人権取組自己チェック表において全員が「概ね取り組めた」以上になる)

- 3 生徒同士、教職員、外来者等に対して場面に応じた挨拶ができるスキルを身につけるために、生徒会役員、室長、運動・文化部の部長が核となった挨拶運動、トレーニングシート等を活用したロールプレーを実施し、生徒のコミュニケーション能力向上につなげます。

(取組状況の指標：生徒を主体とした挨拶推進運動、年5週以上実施)

(達成状況の指標：学校関係者評価委員による評価「概ね達成できている」以上、授業公開日の保護者アンケート「概ね達成できている」以上)

教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会等を設けるなどして組織を活性化させ、全員一丸なって生徒の状況の迅速な把握と対応に努めます。

【教科会・学年会・進路指導部】

- 1 教科の指導計画や教材の共有化等を図り、教科内の情報交換を進めます。また各教科、科目指導計画の進捗状況調査を行い、学習指導の品質を整え、充実を図ります。

また、質、量の両面から生徒の実態に合った課題が提供されているかについて必要に応じて聞き取り、定期的に検証し、適切な家庭学習が行われているかを把握し、生徒の学力向上につなげます。

(取組状況の指標：教科会を教科毎に10回以上実施、進捗状況調査の実施、全教員が他の教員の授業に年間1回以上参加してコメント提供)

(達成状況の指標：課題の質、量調査結果と学力向上の相関性について分析。成績順位別に任意抽出した生徒から聴き取り、実態を把握し、1学年は6、9月、2学年は6、11月に校長に報告し、改善につなげる)

【総務部・管理職・学年会】

- 1 各種面談、アンケート調査、ケース会議などの結果から得られた情報、知見をもとに主任会議や各種委員会を定期的で開催し、情報の共有を図るとともに校務分掌や部活動の在り方等も含めた学習者本位の視点から改善点を検討し継続した学校経営改善に取り組みます。

(取組状況の指標：8月に中間評価を実施、改善点の提案各委員会1項目以上提案)

(達成状況の指標：学年修了時において全学級が満足型となる)

【総務部・事務部・生徒指導部・保健部・図書部】

- 1 緊急地震速報の活用訓練、津波、火災、地震等やさまざまな災害を想定した実践的な避難訓練を、消防本部の指導助言のもとに実施します。

(取組状況の指標：避難訓練年1回実施、消火訓練年1回実施)

(達成状況の指標：訓練後の防災意識アンケートで「意識が高まった」が90%以上)